

設問1

内分泌臓器に対応する疾患の組み合わせについて、正しいのはどれか、1つ選べ。

A1	脳下垂体-先端巨大症
A2	副甲状腺-バセドウ病
A3	膵臓-高カルシウム血症
A4	甲状腺-不妊症
A5	副腎-低身長

正解 A1

2は甲状腺、3は副甲状腺、4は卵巣、5は脳視床下部・下垂体が原因で起こる疾患である。

設問2

甲状腺機能低下症の症状について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	皮膚乾燥
A2	便秘
A3	傾眠
A4	体重減少
A5	動作緩慢

正解 A4

体重減少は、甲状腺機能亢進症(バセドウ病)で見られる症状である。

設問3

1型糖尿病に関する記述について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	発症のピークは思春期である。
A2	症状として、口渇・多飲、多尿、体重減少などがみられる。
A3	急速に膵臓のベータ細胞が破壊され発症する。
A4	様々な自己抗体が陽性となる。
A5	生活習慣が発症に関与する。

正解 A5

2型糖尿病とは異なり、生活習慣は発症に無関係である。

設問4

2型糖尿病に関する記述について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	遺伝的素因によるインスリン分泌能の低下が発症に関与する。
A2	インスリン療法は適応とはならない。
A3	インスリン分泌不全に生活習慣の悪化に伴うインスリン抵抗性が加わることが原因で起こる。
A4	成人発症が多い。
A5	薬物療法として、経口血糖降下薬が用いられる。

正解 A2

インスリン分泌能の低下が著しい症例や、糖毒性を解除する必要がある場合はインスリン療法が適応となる。

設問5

糖尿病に対する運動療法について、誤っているものはどれか、1つ選べ。

A1	急性効果として、運動後に血糖値が低下する。
A2	長期効果として、インスリン感受性が改善する。
A3	運動強度は、最大酸素摂取量の80%以上が効果的である。
A4	脂質代謝の改善に寄与する。
A5	ストレスが軽減し、精神的健康の獲得が期待できる。

正解 A3

運動強度は、最大酸素摂取量の40%～60%程度の中等度の強度で実施する。